

# WaBuB PFM News

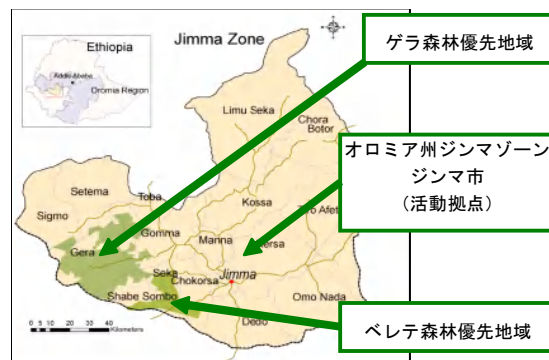
～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2008年3月1日発行 (第15号)



## コーヒーの花が咲きました…が？

相変わらず乾期で暑い日が続いていますが、朝晩に時折、雨が降り出すようになりました。雨の到来とともに、コーヒーの白い花が咲き始めました。収穫が終わったばかりなのに、随分と早いような気がします。例年は、本格的に雨が降り出す5月頃だったと思うのですが…。これは狂い咲きと言う人もいれば、これで来年は大収穫が望めると期待する人もいます。やはり、これも異常気象の影響なのでしょうが…。活動の方では、小川短期専門家とケニアからマサイ専門家が赴任し、主に WaBuB Field School (WFS) の課題整理や今後の計画作りに関わる活動を行っています。今号では、主に WFS の現状や課題について、ご報告したいと思います。



一斉に咲いたコーヒーの花

## ベレテ・ゲラ巡業 ～ゲラ森林 コラ・キンビビット村の巻～

もう限界だ…尻が痛い。お金をケチって荷物用の馬を借りたのが間違いだった。鞍というより木の板じゃないか！こんなことなら歩いた方がマシだろうが、コラの集落まで一体どれだけかかるかわからない。お伴の兄ちゃんは3時間程だと言うが、灼熱の乾いた平原をひたすらパカパカと揺られていると、気が遠くなってきた。三蔵法師もこんな風に痛む尻をさすりながら、はるか天竺を夢見たのだろうか…。ああ、ロマンだなあ…。

エチオピア・クリスマス前のコラ集落は、ちょうど週1回の市場の日にあたり、近隣からの多くの村人で賑わっていた。天竺には敵わないだろうが、製粉所もあるし、商店が3つもある。なかなかの都会じゃないか！この村で勤務する二人の普及員、ベライとソロモンを探す。名前を叫んでいると、間もなく群衆の中から現れた。それぞれニワトリとヤギを引き連れている。実家へのクリスマス用のお土産を、市場で調達したところらしい。なかなか美味そうだ。荷物を置いて早々に、ベライと共に川へ水浴びに行く。10分も谷を下りると、きれいな小川が流れている。これも、森の恩恵だなあ…。傷んだケツに冷たい流水が心地よい。横の草むらを見上げると、ベライがしゃがみながら放心中。少し上流からは、水汲みをする女たちの笑い声が聞こえる。すぐ下流でバッシャンと激しい音、「何が起こったんだ？」というような目をして、牛がのそのそと立ち上がるの見える。牛同士で喧嘩でもして、川に落ちこちたのだろう。



移動には馬が欠かせない

翌朝、まだ暗いうちから隣の部屋のヤギがガソゴソ騒ぎ、ニワトリがけたたましい鳴き声をあげる。庭先では、ロバがなんとも悲痛な叫びを繰り返す。勘弁してくれいっ！この阿鼻叫喚のような中で、どうしてソロモンは寝ていられるんだ！？まあ、これでなきゃ普及員は務まらないのだろう。ようやく起きだしたソロモンと共に、WFS が行われるキンビビット集落へ向かう。黄金色の小麦畑ばかりが広がるが、1時間半ほど山を登るとオレンジのビニルシートが見えた。メンバーがお揃いだ。出欠確認の後、苗畑の観察を終え、今日のトピックとして「森の役割」について話し合う。ソロモン普及員が WaBuB イラスト冊子(第6号参照)を読みながら、メンバーに森の現状や問題について意見を聞く。出された意見を、今日の議事進行係(Host Team)が板書している。何気ない授業のように見えるが、こうした役割分担がしっかりこなせるようになり、組織力を強化することも WFS のねらいの1つである。



森の役割って何だろう？



絶景を望む苗畑で観察

翌日、ベライ普及員の WFS までは3時間かかると言うので、尻をさすりながら馬で向かう。毎週、こうして山道を登るベライの苦勞が身にしみてわかるとともに、途中で通る瑞々しい森のありがたさに畏敬の念を抱く。ようやく辿り着いた山頂2400m の WFS は、その絶景もさることながら、メンバーの真剣な表情に胸を打たれる。はるばると毎週来てくれる普及員がいるからこそ、メンバーも真剣に取り組む。真剣な村人がいるからこそ、普及員もやる気を奮い立たせられる。ある種の信頼関係の原則が、ここにある。自然やフィールドに学ぶ謙虚さを、これからも大切にしていきたい。

## 農民の学校 WFS うまくいかないこともあります！

10月から始まった WFS も早いもので、20週目に入りました。卒業する9月までの半分を、もうすぐ終えることとなります。これまでプロジェクトスタッフが分担してほぼ全ての WFS をまわってきましたが、これが WFS なのかな？首をかしげてしまうような所もあります、その例を幾つかご紹介いたします。

### ～ベレテ森林アトロ・ガファレ村 ガディッサ普及員の WFS～

水曜日の朝から WFS を行っているはずのガディッサ普及員の WFS を訪れると、メンバーが一人もいません。おかしいな？近所の村人に聞くと、「今日は午後からだ…」と言います。普及員の都合などにより、ころころと日時が変わっているようです。これでは、たまたま休んだメンバーなどにとっては、いつが WFS なのかはつきりしません。午後に再び訪れると、案の定、



毎週、同じ日時に行おう！

来ているメンバーは 10 名ほど。時間も 30 分遅れでだらだらと始まりました。Learning Site (学びの場) もイスなどなく地べたに座っているので、しっくりしません。雨の時などは、どうするのでしょうか？

### ～ベレテ森林ミルガノ・バソ村 ギルマ普及員の WFS～

ギルマ普及員は30分遅れで到着した途端、すでに来て待っていたメンバーと言い合いを始めました。どうしたのでしょうか？「先週のように、メンバーがほとんど来ないようであれば、もう WFS はやらない！」と、ただ事でない剣幕です。「う～ん、でも君も時間通りに来てなかったよ。」人はいい奴なのですが、どうも自信がない普及員ほど、メンバーにきつくあたってしまう傾向があるようです。

何とかなだめてセッションが始まりましたが、WFS に必要な文房具も学びの場もなく、いきなり農作業が始まりました。苗畑に行き、苗床を日差しや雨から守るための覆い作りが始まりました。いつもこの調子ようです。これでは、単に共同での農業活動であり、学校とは言えません。



WFS=農業活動??

### ～ゲラ森林オバ・トリ村 アハメ普及員の WFS～

あらかじめ訪問する予定だと伝えていたのに、アハメ普及員は出掛けのまま、任地のオバ・トリ村に帰ってきていないようです。20 名ほどのメンバーがしっかり時間に来ているのに、困ったものです。今日はもう中止でしょうか？しかし、メンバーは何でもないうように出席確認をし、農作業を始めました。普及員がおらず、植物の観察・発表が行われていないのは問題ですが、



普及員がいなくとも…

メンバーが自分達でセッションを行おうとする意欲と、分担作業がしっかりできているのは大したものです。普及員がいなくとも農民自身で WFS が行われるのも目標の1つであり、3 月にはそのための農民向け研修を行う予定です。

## WFS の改善をしていきます！

今回、小川短期専門家が WFS の課題をまとめてワークショップで共有し、普及員もアイデアを出し合いながら、より WFS の質を向上させるための改善案を作成しました。大きな点としては、普及員が WFS を行う上での「心構え」と「目指すもの」を明確にすることでしょう。

### 1. 普及員は「ファシリテーター」であり、教師ではない。

毎週の WFS の中で、議事進行はメンバーが交代で担当し、普及員は後ろに座ってメンバーの後押しをするスタンスを取るのが原則ですが、普及員が終始前に出て、講義のような形式を取り続けている WFS があります。これでは、農民達が自由に意見を交換し、議論する機会が限られてしまいます。

### 2. WFS は農業研修でなく、農民のエンパワーメント(能力向上)を目的とした学びの場である。

多くの普及員が、WFS の目的を「農業の技術・知識の普及」と捉えています。それであれば、毎週メンバーが集まって農作業のみを実施すれば達成できるかもしれません。しかし、それは WFS の目指す目的のほんの一部でしかありません。WFS は農民の「総合的な」能力、すなわち森林管理など社会全体の様々な活動に適用できる能力を育成することを目指しています。



毎週の観察・発見による学びと同時に、害虫などの問題が生じた場合、解決策をグループで話し合う。



観察結果の発表を通じて学びを共有すると共に、自信など精神的な面で力や表現力を育成する。



メンバーが交代で議事進行や議事録の作成を行い、意志決定のプロセスなど組織力の強化を図る。



WFS では皆が平等の権利や役割を担う。女も男も村長も、共に作業をしながら世間話に花が咲く。

### ベレテ・ゲラの有用樹種

#### Wolensu (*Erythrina brucei*)

乾期も終盤になり、埃まみれの乾ききった土地に、一際目立つ木があります。鮮やかな橙の大きな花をつけたウォレンス(現地オロミア語での呼称)は、薪としての利用以外にも家畜の飼料として使える他、畑への施肥効果などもある、多目的樹種の1つです。挿し木による繁殖が容易なため、家の垣根として多く使われています。キンビット集落からの帰り道に、満開のウォレンスを見上げながら、ペライ普及員が教えてくれました。毎月の樹木紹介の多くは、こうして普及員から仕入れた情報に基づいています。

